

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案登録公報 (Y 2) (11)実用新案登録番号

第2542612号

(45)発行日 平成 9 年(1997) 7 月30日

(24)登録日 平成 9 年(1997) 4 月25日

| | | | | |
|--------------------------|------|--------|---------------|---------|
| (51)Int.Cl. ⁶ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
| A 0 1 K 87/08 | | | A 0 1 K 87/00 | 6 2 0 D |

請求項の数 1 (全 4 頁)

| | | | |
|----------|---------------------|------------|-----------------------|
| (21)出願番号 | 実願平5-18424 | (73)実用新案権者 | 000002495 |
| (22)出願日 | 平成 5 年(1993) 3 月22日 | | ダイワ精工株式会社 |
| (65)公開番号 | 実開平6-70565 | (72)考案者 | 古谷 英之 |
| (43)公開日 | 平成 6 年(1994)10月 4 日 | | 東京都東久留米市前沢 3 丁目14番16号 |
| | | (72)考案者 | 増山 邦夫 |
| | | | 東京都東久留米市前沢 3 丁目14番16号 |
| | | (74)代理人 | 弁理士 越智 俊郎 |
| | | 審査官 | 星野 浩一 |

最終頁に続く

(54)【考案の名称】 キャスティングハンドル

1

(57)【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 トリガー付きのキャスティングハンドルにおいて、
前記トリガーの後部に位置し、該トリガーと共に把持される上下左右に膨出した握り領域部と、
左右方向幅が前記握り領域部の対応幅以下であり、上下方向幅が前記握り領域部の対応幅より小さく形成されて前記握り領域部の後方位置にあり、握った手の手首よりも十分に後方に位置すると共に上面が扁平な後部と、
該後部と前記握り領域部との間であって、左右方向幅も上下方向幅も前記後部の各対応幅よりも小さい小径中間部とを有し、
前記握り領域部と小径中間部と後部とが竿管の長さ方向に延設されていることを特徴とするキャスティングハンドル。

2

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本考案はトリガー付きのキャスティングハンドルに関する。

【0002】

【従来の技術】 キャスティングロッドの操作性向上のためにそのキャスティングハンドル部を工夫した種々の考案がある。例えば、実公平 3-24053 号公報にはキャスティングハンドルのグリップを延長した両手投げのものが開示されている。また、実開平 1-98567 号公報には片手投げのグリップ形状を工夫したものが開示されている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】 上記各グリップは両手投げのものと片手投げのものであり、夫々キャスティン

3

グ時に投げ易いように工夫がなされているが、キャスト
ィング後に魚が釣れた場合に行うポンピング操作等の操
作性をも併せて工夫したものではない。

【0004】依って本考案は、キャストィング操作が容
易であると共に、ポンピング操作等キャストィング後の
操作性をも向上させたキャストィングハンドルの提供を
目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的に鑑みて本考案
はトリガー付きのキャストィングハンドルにおいて、前
記トリガーの後部に位置し、該トリガーと共に把持され
る上下左右に膨出した握り領域部と、左右方向幅が前記
握り領域部の対応幅以下であって、上下方向幅が前記握
り領域部の対応幅より小さく形成されて前記握り領域部
の後方位置にあり、握った手の手首よりも充分に後方に
位置すると共に上面が扁平な後部と、該後部と前記握り
領域部との間であって、左右方向幅も上下方向幅も前記
後部の各対応幅よりも小さい小径中間部とを有し、前記
握り領域部と小径中間部と後部とが竿管の長さ方向に延
設されていることを特徴とするキャストィングハンドル
を提供する。

【0006】

【作用】握り領域部は上下左右に膨出しているため把持
性が良い。また、この握り領域部の隣接部は小径の中間
部であり、手首をひねるようなキャストィング時におい
てキャストィングハンドルが手首や腕と交差するが、交
差するこの中間部の領域が細いためキャストィングの邪魔
にならない。更には、後部の上下方向幅も握り領域部
の上下方向幅よりも小さく、左右方向幅も握り領域部の
それよりも大きくはないように設定しているため、キャ
スティング時に腕に引っ掛る等の邪魔にはならない。一
方、この後部は手首の充分後方に位置するように握り領
域部から竿管方向に延設されて離れ、上面が扁平である
ためにキャストィング後に片手で釣り操作を行う場合、
該後部の扁平面を腕の下面にあてがってポンピング等の
操作を行うことができる。

【0007】

【実施例】以下、本考案を添付図面に示す実施例に基づ
き、更に詳細に説明する。図1と図2は本考案に係るキャ
スティングハンドルの上面図と側面図であり、以下では
これらを参照しながら説明する。竿管10に套嵌されて
接着固定された硬質樹脂製のリール脚固定体16の前
にはコルク材等の弾性材による前側グリップ14が回転
可能に取り付けられている。一方、後ろにはコルク材等
の弾性材によるハンドルグリップ12が竿管10に套嵌
されて、接着固定されている。

【0008】上記リール脚固定体16の上面はリール脚
載置部16Cとして形成され、後部にはリール18(図
3)の脚の一端を受け入れる固定フード16Bが形成され
ている。一方、上記前側グリップ14とリール脚載置

4

部16Cとの間の隙間によって移動フード16Aを形成
しており、リール脚の他端を受け入れて前側グリップ1
4を回転させて締付、固定する。

【0009】上記ハンドルグリップ12は、トリガー1
6Dに隣接した部分で、側方に膨出した側方膨出部12
dと、リール脚固定体16の後部から上記ハンドルグリ
ップ12の上面に亘って上方に膨出した上方膨出部12
aと、この上方膨出部12aよりもやや後方に位置して
下方に膨出した下方膨出部12bとを有した握り領域部
12Aを具備している。

【0010】また、この握り領域部12Aの後方に隣接
して竿管10の長さ方向に延設された小径中間部12B
と、更にその後方の後部12Cとを有し、この後部12
Cには高強度で耐摩耗性のある合成樹脂や発泡性の合成
樹脂によって形成された部品12Dが固定されており、
後部12Cのコルク材が崩れることを防止している。上
記竿管10はこの部品12D内にまで達しており(図3
参照)、ハンドルグリップ12が柔らかいコルク材等で
形成されていても強度を保持できるように構成されてい
る。この部品12Dの後端面12Eは図2に示すように
45度〜70度の角度θで傾斜しており、釣人の腹部に
あてがってポンピング操作等を行い易いように形成して
いる。

【0011】上記後部12Cの左右方向幅W3は握り領
域部12Aの幅W1と同等か或いはそれ以下の寸法にす
る。更に、小径中間部12Bの左右方向幅W2は前記幅
W3よりも小さく設定し、場合によっては竿管10が露
出するほどの細い幅であっても良い。一方、竿管10の
中心軸線(又はその延長線)に対する後部12Cの上下
方向幅H3は握り領域部12Aの対応幅H1よりも小さ
く、低く設定する。また、小径中間部12Bの対応幅H
2は前記H3よりも更に小さく設定し、場合によっては
竿管10が露出するほど細く設定しても良い。

【0012】このキャストィングハンドルを把持してキ
ャスティング操作をする際には、図3に示すようにリ
ール脚固定体16の後部下端位置に形成されたトリガー1
6Dには人差指を係止し、中指、薬指、小指の各指はト
リガー16Dの後部の握り領域部12Aを下方から把持
する。この中指、薬指、小指の各指の当接する左右両側
領域を平面又は緩やかな曲面の平面状に形成し、その横
断面は、両平面状部12Fの成す角度を図4に示す様に
V字状の角度とし、曲面状の上下各膨出部12a、12
bに滑らかに連続している。

【0013】この両平面状部12Fは一般に、竿管10
の中心軸線の位置よりも上方から形成され、該両平面状
部12Fの交差する下部は滑らかに丸められて上記下方
膨出部12bを形成しており、更に上部は既述の上方膨
出部12aに連続している。

【0014】上記構成によれば、キャストィング時の中
指、薬指、小指の各指の当接するハンドルグリップの握

5

り領域部 1 2 A 側面が平面状に形成されて、しかも、両平面状部 1 2 F が下方に向かって互いに近づくように傾斜しているため、把持した手の指の曲がり状態に沿っていると共に指で力を入れ易く、上記 3 指、又はこの 3 指に加えてトリガー 1 6 D に係止する人差指とでハンドルを強く握持できる。従って、残った親指の動作の自由度が増し、サミング操作やキャストイング操作が容易となる。特に、サイドキャスト、アンダーハンドキャスト等の手首を使用するキャストイング操作が容易になる。

【0 0 1 5】また、既述の各部の幅寸法 W 1、W 2、W 3、H 1、H 2、H 3 は図 4 から図 6 にも図示しており、各部 1 2 A、1 2 B、1 2 C と手（又は腕）との位置関係は図 3 に示す如くであり、小径中間部 1 2 B と後部 1 2 C が低くかつ細く形成されているため、手首を使用したキャストイング時にこれら小径中間部 1 2 B や後部 1 2 C が手首や腕に当ってキャストイング操作の邪魔になることは無い。しかも図 6 に現われているように、後部 1 2 C の上面は扁平に形成されているため、キャストイング後に釣竿を操作する際に、後部 1 2 C のこの扁平な上面をその腕の下面に当接させてポンピング操作等を片腕で行うことができ、操作性が向上する。

【0 0 1 6】

【考案の効果】以上の説明から明らかなように本考案によれば、握り領域部が膨出しているため把持性が良く、該握り領域部のすぐ後ろが低く細く形成されており、しかもその後部も低く形成されているため、キャストイン

6

グ操作時に腕に引っ掛るような邪魔にならず、しかも扁平な後部の上面を腕の下面に当接させることができるためキャストイング後の操作性が向上する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】図 1 は本考案に係るキャストイングハンドルの平面図である。

【図 2】図 2 は本考案に係るキャストイングハンドルの側面図である。

【図 3】図 3 は本考案に係るキャストイングハンドルを把持した側面図である。

【図 4】図 4 は図 3 の矢視線 B-B による横断面図である。

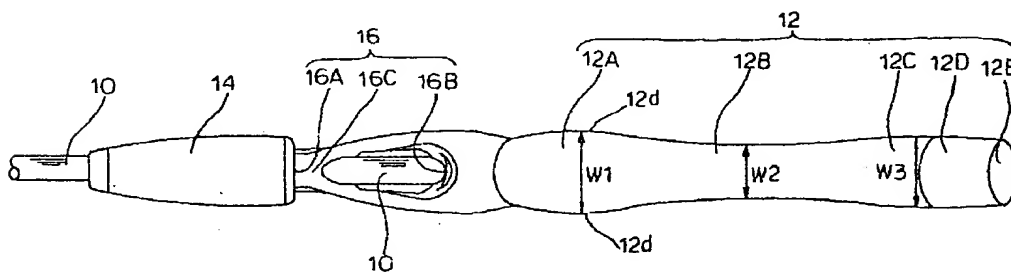
【図 5】図 5 は図 3 の矢視線 C-C による横断面図である。

【図 6】図 6 は図 3 の矢視線 D-D による横断面図である。

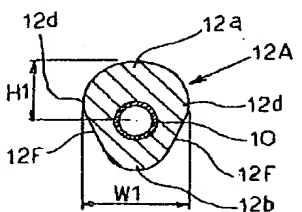
【符号の説明】

| | |
|-------|----------|
| 1 0 | 竿管 |
| 1 2 | ハンドルグリップ |
| 1 2 A | 握り領域部 |
| 1 2 B | 小径中間部 |
| 1 2 C | 後部 |
| 1 2 F | 平面状部 |
| 1 4 | 前側グリップ |
| 1 6 | リール脚固定体 |
| 1 6 D | トリガー |

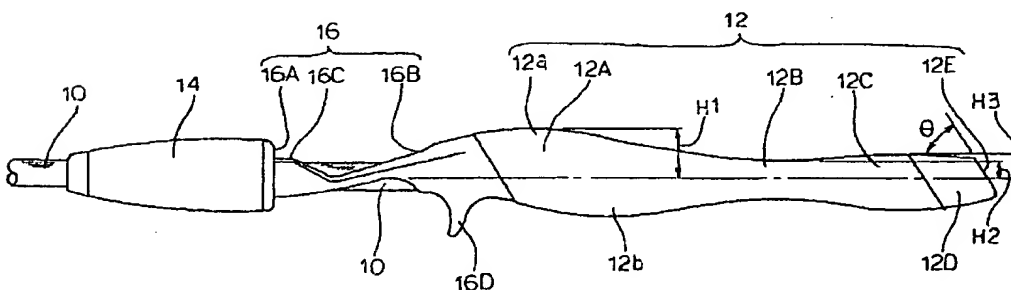
【図 1】



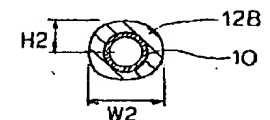
【図 4】



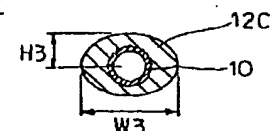
【図 2】



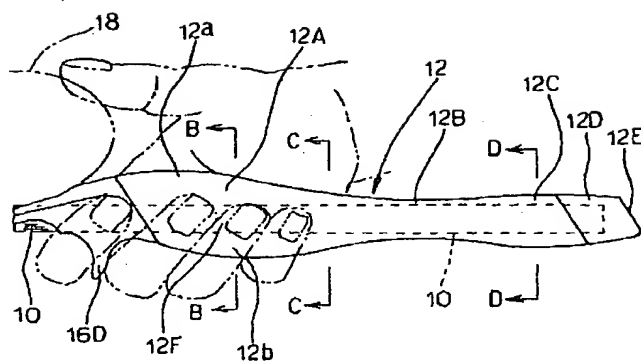
【図 5】



【図 6】



【図 3】



フロントページの続き

- (56) 参考文献
- | | |
|----|----------------------------|
| 特開 | 平 2 - 174624 (J P , A) |
| 実開 | 昭 60 - 27671 (J P , U) |
| 実開 | 昭 57 - 104878 (J P , U) |
| 実開 | 平 1 - 98567 (J P , U) |
| 実公 | 平 3 - 24053 (J P , Y 2) |
| 実公 | 昭 45 - 14286 (J P , Y 1) |